



from Washington, D.C.



まもなくの開通に向けて試験走行を続ける路面電車

ワシントンD.C. 周辺の交通事情

皆さんは、米国の首都ワシントンD.C. (通称D.C.)の人口がどのくらいご存じでしょうか。「約60万人」と聞いて「意外に少ない」と思う方もいらっしゃるのではないのでしょうか。もちろん、政府の役割が広がる中で増え続ける職員や関係する人々の住居をD.C. だけで賄うことはできません。そうした人たちの住宅需要を支えているのが、バージニア州北部やメリーランド州南部といった周辺地域です。

これら周辺地域の人口は、ここ10年近く、全米屈指の勢いで増加しており、それゆえ朝晩の通勤時間帯の交通渋滞は避けて通れない問題となっています。

こうした状況を少しでも改善するため、発展著しいバージニア州北部とD.C. を結ぶ新しい地下鉄「シルバーライン」が昨年7月に開通しました。既にある5色の名前を持つ路線に、この新たな色の路線が加わったのは23年ぶりのことです。また、これまで再開発が

遅れていたD.C. 東部でも、約50年ぶりの路面電車復活に向けて準備が進められています。

しかし、D.C. で働く人の半数以上が自動車通勤と言われる中で、交通渋滞の問題を根本的に解消するのは困難です。そこで最近導入されているのが、「エクスプレスレーン」と呼ばれる高速道路の特別有料車線です。

無料の高速道路が多い米国にあって珍しく、有料だけでなく、この車線の通行料金は、朝夕のラッシュ時に値上がりし、混雑が和らぐと値下がりするというように、刻々と変わります。

料金の上げ下げで交通量をコントロールし、ほぼ時間通りに通行できる特別な車線を用意することで、全てのドライバーの期待には応えられないものの、必要な場合に渋滞に巻き込まれない交通手段を確保しているのです。

さらに、3人以上で乗車すると料金は無料。これにより、通勤時の相乗りも促しています。

利用に必要な機器も数十ドルで売り出され、新聞・ラジオでも盛んに宣伝されていますが、果たして効果の程はいかに。期待が集まります。

(日本銀行ワシントン事務所)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



シルバーラインが開通した駅周辺で進むビル建設



見ている間にも刻々と料金が変わるエクスプレスレーン